如月

〔きさらぎ〕令和４年２月

一年の内で最も寒さを感じる月で、着る物をさらに増やす月という意味で着更着とも書きます。

発行：北海道神社庁一区教化委員会

日本国中の人は皆、昔の神の御子孫なれば、神をあがめ、うやまひ貴むべし

～伊勢貞丈家訓～

今月のことば

日本国中の人は皆、昔の神の御子孫なれば、
神をあがめ、うやまひ貴むべし

― 伊勢貞丈家訓 ―

神社人は皆「敬神崇祖」ということを知っている。

この家訓はそれをいったものである。

子供たちに神社の境内を荒してはいけないと、口で言っても仲々わかってもらえない。子供たちに、神社は「昔の自分たちの祖先をお祭りしている所です。大切にし、きれいにしましょう」と教えるのもその一つである。それがわかって初めて、神を敬い、貴ぶことができる。

「祖先の神さまは、子孫の私たちに生きていく方法を教えてくれたお方です」という所から、ゆっくり懇々と祖先の教えを説くことも必要である。

（続神道百言　一般財団法人神道文化会編より抜粋）

季節のまつり

節分

二月三日　家族そろって「鬼は外」

節分は、季節が移り変わるときという意味で、立春・立夏・立秋・立冬の前日を言いましたが、特に気候が冬から春に移る時期であることから、立春の前日だけを呼ぶようになりました。

そして、季節の変わり目には災いや疫病が増えるため、厄や邪気を鬼に見立てて追い払う「追儺（ついな）」（おにやらい）の行事を取り入れて、豆まきを行います。まいた豆を年の数だけ食べるのは、年取りの行事で、新しい年を健康（まめ）に暮らせますように願いを込めて食べます。

恵方

恵方巻き　今年の恵方は「北北西」

恵方とはその年の干支によって定められた最も良いとされる方角のことで、今年の恵方は「北北西」です。その方向に歳徳神がいるといわれ、節分にその恵方に向かって巻き寿司を食べることから「恵方巻き」や「恵方寿司」と呼ばれるようになりました。恵方巻きは目を閉じて願い事を思い浮かべながら、恵方に向かって無言で一本丸ごとの海苔巻きを丸かぶりします。巻き寿司を切らずに食べるのは「縁を切らない」という意味が込められており、七福神にちなんで七種類の具材が入れられ、「福を巻き込む」という願いも込められています。

針供養　なぜ二月八日なのか？

二月八日には、日ごろ使っている針を供養する行事があります。これは江戸時代から始まった行事で、この日は針仕事を休んで、折れたり曲がったりして使えなくなった針を、こんにゃくや豆腐、餅などに刺して、川に流したり、神社やお寺に持ち寄りました。

そして、日常生活に欠かせない針に感謝をささげるとともに、針仕事の上達と安全を祈ったのです。

この針供養は、地域によっては二月八日と十二月八日の年二回行いますが、この二日は、こと始めとこと納めという厄日に当るために、針仕事を休んで針の供養をするようになったということです。

最近ではこの行事はあまり見られなくなりましたが、和裁を教える学校などでは、現在でも針供養を行っています。

敬天愛人

天を敬い、人を愛すること

瑠璃唐草（るりからくさ）

参考文献
『日本人のしきたり』飯倉晴武（青春出版社）

令和 4 年 2022年 2月

日	月	火	水	木	金	土
		1 先勝 とり	2 友引 いぬ	3 先負 節分 ゐ	4 仏滅 立春 ね	5 大安 うし
6 赤口 とら	7 先勝 う	8 友引 こと始め 針供養 たつ	9 先負 み	10 仏滅 初午 うま	11 大安 建国記念の日 紀元祭 ひつじ	12 赤口 さる
13 先勝 とり	14 友引 いぬ	15 先負 三りんぼう ゐ	16 仏滅 ね	17 大安 祈年祭 うし	18 赤口 とら	19 先勝 雨水 う
20 友引 たつ	21 先負 み	22 仏滅 二の午 うま	23 大安 天皇陛下御誕生日 天長祭 ひつじ	24 赤口 さる	25 先勝 とり	26 友引 いぬ
27 先負 三りんぼう ゐ	28 仏滅 ね					

二十四節気

【立春 りっしゅん】…四日

太陽黄経三百十五度のときにあたり正節で、節分の翌日になります。暦の上ではこの日から春ですが、まだ寒さは厳しい候です。

【雨水 うすい】…十九日

このころ雨水ぬるみ、草木が発芽しはじめます。

六曜・選日

《六曜》

【先勝】…諸事急ぐことによし、午後よりわるし

【友引】…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む

【先負】…諸事静かなることによし、午後大吉

【仏滅】…万事凶、患えば長びくおそれあり

【大安】…何事をするのにも吉の日、大吉日

【赤口】…諸事油断すべからず、正午のみ吉

《選日の吉凶》

【三りんぼう】…三隣亡日、普請始め、棟上大凶日

七十二候《2月》

立春

初候・東風解凍（はるかぜこおりをとく）
春の風が氷を解かす

次候・黄鶯見睆（こうおうけんかんす）
ウグイスが鳴き始める

末候・魚氷上（うおこおりにのぼる）
割れた氷から魚が飛び出す

雨水

初候・土脈潤起（つちのしょううるおいおこる）
土が雨で湿り気を帯びる

次候・霞始靆（かすみはじめてたなびく）
霞がたなびき始める

末候・草木萌動（そうもくきざしうごく）
草木が芽吹き始める

※七十二候とは二十四節気の各節気をさらに3つの候に細分し、一年を七十二に分けたものをいいます。季節の移ろいを気象や動植物の成長・行動などに託して表現したものです。

「厄年」とは何歳ですか？

厄年は男性が二十五歳・四十二歳・六十一歳で、女性が十九歳・三十三歳・三十七歳の年回りを言います。その前後の年齢を「前厄」「後厄」と言います。中でも、男性の四十二歳は「死に」、女性の三十三歳は「散々」に通ずると言う語呂合わせから「大厄」と言われて、特に意識されることが多いようです。

神社では、正月から二月の節分にかけて『厄祓』のご祈祷を受ける人が多く見られます。厄年は近年、医学的に解明しようとの試みもなされていますが、ホルモンの分泌量の変化や、免疫力低下などにより体調不良を起こすことがデータ的にも多いようで、神社での厄祓いの際に授与された神札を神棚におまつりし、お守りを身近に持ち歩くなど、普段より健康に留意し、生活することが大切でしょう。

令和4年の厄年

男性		女性	
数え年	生年	数え年	生年
25歳	平成 10 年生	19歳	平成 16 年生
42歳	昭和 56 年生	33歳	平成 2 年生
		37歳	昭和 61 年生

還暦

男 女	61歳	昭和 37 年生

※各年齢の前後が前厄後厄となります。
※厄年には地域や神社により習慣の違いがあります。
詳しくは御社頭にてご確認下さい。

安産祈願 2月の戌(いぬ)の日

2日（水）・14日（月）・26日（土）

＊戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。

《 11日　建国記念の日 》
建国をしのび、国を愛する心を養う日です。

《 23日　天皇陛下御誕生日 》
天皇陛下の御誕生日を祝う日です。

祝祭日には国旗を掲げましょう